

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2013年11月12日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

憲法を今こそ花開かせよう！ 憲法9条・25条・97条

11.10 「北海道社会保障学校 i n 十勝」 全道から250人以上が参加



11月10日(日)、帯広市内で北海道社会保障学校(16回目)が行われ、帯広・十勝をはじめ全道各地から250人以上が参加しました。

今回は、安倍政権が、憲法を壊し、戦争する国、社会保障の解体を進めようとしている中、「憲法を今こそ花ひらせよう」～憲法9条(戦争放棄)・第25条(生存権)・第97条(最高法規・基本的人権)～をスローガンに行いました。午前の全体会では、宇都宮健児さん(反貧困ネット代表・前日弁連代表)が記念講演を行い、午後からは4つに分かれ、「相談員養成講座」「国保問題」「生活保護問題」「TPPを考えるシンポジウム」をそれぞれ行いました。参加者からは、「社保学校にはじめて参加させていただきました(十勝)」「とても勇気ができました(北見)」「釧路からバスで来た甲斐がありました」「参加してよかったです(札幌)」など、好評でした。

立場を超えた取り組みで、憲法改悪を許さず、憲法を実質化させよう！

宇都宮さんは、貧困が広がる一方で富が集中していることや、安倍政権による生活保護法などの改悪の動きに触れ、貧困問題の解決には、①人間らしい生活ができる労働政策、②働けなくても人間らしい生活ができる社会保障政策、③富裕層への課税強化が必要と強調しました。

また、安倍政権登場によって加速される改憲の動きや、人権を基本とする憲法の原理や立憲主義を放棄する自民党改憲草案の危険性について詳しく説明。改憲を許さないために、同質の集団の集まりは「和」になるが、異質の集団の集まりは「責」になると、政治的立場を超えてつながること、無関心層をはじめ運動を広げる工夫、憲法を実質化させる運動が必要と訴えました。最後に、「ピンチではあるが、国民が関心を持つ時期でもありチャンスでもある」また「一人ひとりでは微力であっても無力ではない。つながれば大きな力になる」と講演を締め、会場は拍手に包まれました。



相談員養成講座 (労働相談・生活相談)



毎年好評の養成講座には34名が参加。

「労働相談」は帯労連の入江博さん、「生活相談」は道生連の細川久美子さんが講演しました。質疑も行われ、住民の実態や相談活動の経験なども交流しました。

国保問題 (保険料引き下げ、差押えへの運動)

39名が参加。帯広市議の稲葉典昭さんが「市の国保問題の現状や課題」について報告しました。引き下げ運動を進めている北見市や小樽市からの報告を受け、質疑も行われました。特に、滞納処分や徴税強化の動きやたたかいなども交流しました。



生活保護問題 三浦誠一・道生連会長が講演

32名が参加。道生連の三浦誠一さんが「やめさせよう！生活保護基準引き下げと制度の改悪」と題して講演しました。2時間以上の講演のあと、質疑も行われました。



TPP問題 講演とシンポジウム

57名参加。北大の東山寛さんから、グローバル化の経済ルールづくりの失敗の下でのTPPの位置や問題点や交渉状況について講演。シンポジウムでは、十勝町村会長の高橋正夫本別町長をはじめ、農民、業者、医療の代表からその影響やたたかいなどが報告され、フロアからもたくさんの方から発言もありました。

